

NPO法人「グランドワーク三島」

専務理事 渡辺豊博 様

山口東司 様

私、掛川市「上垂木ホタルを守る会」の と申します。

7月17日の中日新聞に掲載された『「三島の宝」ホタル危機』を読ませて頂きました。実は私、何年か前に三島の源兵衛川を訪問し、ホタルの飼育しているお宅を見せて頂いたことがあります。

市と連携し、源兵衛川のホタル保存活動に取り組む努力に頭が下がります。今回の市の不手際にお怒りのお気持ちお察しいたします。

私どもの会の活動の一部の紹介と私の感想を述べさせていただきます。貴会の活動の参考になれば幸いです。

上垂木ホタルを守る会は、約20年前に発足し、地元住民の協力を得て、雄志がホタルの養殖を行っています。私も養殖に関わっており、近年は地球温暖化の影響もあり、8月、9月の暑さで幼虫の飼育が難しくなっております。昨年度は飼育者6名の殆どが失敗しましたが、それでも本年3月の幼虫放流数は約3,200匹でした。5月末には多くの観賞者で賑わいました。3年前までは「ホタル観賞会」（約2週間）を開いておりましたが、以後コロナ禍で中止しております。それでも県内外からの来場者が多くおります。

実は、私どもも堤防の草刈りの時期について問題になっております。

上垂木では毎年5月の連休前に草刈りをしています。理由は、「草があるとホタルが見えにくい」ということです。私は「ホタル観賞会終了後に草刈りをして欲しい」と主張しています。それは、暑さに弱いホタルが昼間の暑い時間帯を草のない堤防では休めないからです。ホタルの成虫は2週間の命でその間、食物は取らず、水(夜露)だけで夜間に光を放ち舞回っています。従って昼間はできるだけ涼しい所(草陰)で休息をしなければなりません。今年は、不幸にして5月26, 27日に28℃を越す気温になってしまいました。その性か29日以降舞っているホタルの数が激減してしまいました。私は「草刈りをホタル観賞会の終わったあとにして欲しい」と訴えてきました。三島の状況を見ますと、私たちももう一ヶ月遅くした方がよいと思いました。

その理由として、ホタルの乱舞(5月下旬から6月上旬)ですが、その時期に産卵もします。約1ヶ月で孵化し、幼虫になって川に入ります。従って、7月中旬には孵化した幼虫は全て川の中へ入ってしまいます。従って、7月中旬以後に堤防の草刈りを行えば問題はないかと思えます。源兵衛川は名の知れた観光地でもあります。夏の涼を求めて河原に来る市民も多いかと思えます。1回目の草刈りは7月の中下旬でも良いかと思いました。

6月22日の草刈りは、確かに問題と思います。ご指摘のように草刈りの業者がホタルの卵を踏みつけてしまうことは問題です。また卵は草の根元近くに産み付けられると思います。刈られた草は集められてどこかに捨てられると思います。草と一緒に卵も捨てられるものがあることも考えられます。もう一つの心配は、草の刈られた堤防は、木陰になっているとはいえ、直射日光が当たる所もあるでしょう。6月の日差しは強いです。木漏れ日とはいえ、かなりの高温になります。草の根元に残された卵は乾燥してしまうでしょう。(私たちは水苔に産卵させ乾燥しないように霧吹きで水分補給をしています)また、暑さで死滅してしまう卵もあるのではないかと心配です。そうした面からも4月から6月までは堤防の草を自然のままにしておく方がよいかと思えますね。

私の反省として、「いかに観賞会にホタルを多く舞わせるか」ということばかりを考えていました。産み付けられた卵のことは考えていませんでした。大変勉強させて頂きました。ありがとうございます。

機会があれば掛川のホタルを観賞して頂くのも良いと思います。そうした機会があればご案内させて頂きます。

令和4年7月吉日

掛川市「上垂木ホタルを守る会」



昨年のもので、参考に！！

# ホタル飼育情報

69号

令和3年6月

幼虫飼育部 松下 修

## 「堤防の草刈り」最適な時期は？

今年、堤防の草刈りは5月6、7日に行われた。この時期の草刈りはホタルにとって最適な時期だろうか？過去の事例から検証してみたい。

2015年のホタル乱舞の異変を覚えてますか？

幼虫放流数は約5,000匹と多かった。5月中旬には順調に舞い始めた。しかし、下旬になって急に減少してしまった。「なぜだろう？」「このところ暑かったからかなあ？」関係者の疑問であった。そこで同時期の最高気温の変化を調べてみた。

### 過去6年間のホタル出現時の最高気温(浜松市)

西暦	5月							6月					平均値
	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	
2,011年	23	25	22	21	21	26	23	17	19	24	26	25	22.7
2,012年	22	25	26	26	25	23	24	26	25	25	23	28	24.8
2,013年	25	25	24	24	23	23	26	25	25	24	26	26	24.7
2,014年	26	23	27	27	25	26	28	28	28	26	26	23	26.1
2,015年	27	30	28	28	29	29	32	27	27	24	30	23	27.8
2,016年	26	27	30	23	26	23	26	25	25	25	25	23	25.3
2,017年	23	22	26	28	26	29	27	27	26	26	27	26	26.1

※掛川市のデータができないので浜松市測候所による浜松市の最高気温のデータ

このデータから乱舞の減少が“暑さのため”であったことは納得できる。ホタルが暑さに弱いことは、幼虫の病気が夏季に発生するだけでなく、成虫になってからも弱いと言える。

また、ホタルは成虫になると約2週間の期間、夜間は飛び回るが水（夜露など）だけで過ごす。何も食べないためエネルギー補給が出来ない。とすると、日中は出来るだけ涼しい草陰で休息を取らなければならない。

## 草刈りの時期とホタル乱舞の減少の関係は？

2015年の草刈りは、5月11日に行われていた。すなわち気温上昇時期（ホタル減少）の約2週間前となり、ホタルが休息できるだけの草は成長していなかったと思われる。

今年の草刈りは5月6、7日に行われた。約20日後の草の状態は右の写真である。この状態で晴天の暑い昼間ホタルはゆっくり休めるだろうか？

とても難しいと思われる。

幸い今年は梅雨入りが早く、真夏日（25℃以上）の日が少なかったため、高温の被害は免れたと考えられます。

（5月27日27.5℃）



ホタル乱舞時期の堤防の草状態  
(5月26日撮影)

## お願い “草刈りはホタル観賞の終わったあとで！”

現状の5月上旬の草刈りでは、ホタル乱舞の時期にはホタルにとって最適な草丈には成長しないと言える。とすると、次年度からの草刈りはホタルのために草刈りはホタル乱舞のあと（6月5日以降）にさせていただくよう区へお願いしていけたらと思う。